SOMPO JAPAN FOUNDATION NEWS　２００５－３号　　平成１８年３月号

損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団　〒160-8338　東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル３７階
TEL03-3349-9570 FAX03-5322-5257 http://www.sompo-japan.co.jp/foundation　Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

「平成17年度損保ジャパン記念財団賞」が決定しました！！

第７回（平成17年度）「損保ジャパン記念財団賞」は、指定推薦者から著書部門で２９編、論文部門で１５編の推薦を受け付けました。

平成１７年９月２６日（月）、平成１７年１２月２４日（土）、平成１８年１月１４日（土）に開催された審査会では、推薦文献４４編の審査をするにあたり、７学会誌の文献なども確認しながら、社会福祉学の学術面の向上に寄与し、優秀な研究者の人材育成を図るとの観点から議論を重ね、長時間にわたる厳正な審査を行いました。その結果、下記の著書が授賞に相応しい候補文献として推薦され、平成１８年２月１日（水）開催の臨時理事会において、１７年度の損保ジャパン記念財団賞に決定されました。論文部門は残念ながら今年度の受賞はありませんでした。

なお、贈呈式は、３月３０日損保ジャパン本社４３階にて開催されます。

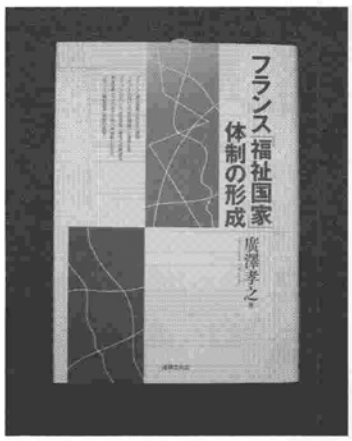
著書部門（一編）

『フランス「福祉国家」体制の形成』（㈱法律文化社　2005 年 3 月発行）

著者：廣澤　孝之（所属　松山大学　教授）



1月１４日（土）17:00 から開催された
第３回審査委員会の様子



受賞作
『フランス「福祉国家」体制の形成』
（法律文化社　発行）

「自動車購入費助成」の贈呈式が各地で開催されました

先回の財団ニュースでお知らせいたしました「自動車購入費助成」の贈呈式が、西日本各地の損保ジャパンの支店や贈呈先で開催されました。各地で開催された贈呈式の中から、新聞紙上に掲載された主な記事を紹介します。

当財団の「自動車購入費助成」は、小規模ながら地域に根ざした活動を積極的に展開し、法人所有の自動車を所有することで、そのサービスの充実・拡大が更に大きく期待できる団体を重点的に選考しています。今回助成の対象となった団体の皆様の事業の充実、更なる活躍を心から期待しています。



小規模作業所に100万円助成
損保ジャパン

損保ジャパン記念財団は十五日、NPO法人のKMC小規模作業所キャンワーク（金沢市）に対し、自動車購入資金として百万円を助成した。損保ジャパン金沢支店で行われた贈呈式＝写真＝では、田島幸広支店長が「今後の活動に役立ててほしい」と福森隆子代表に助成決定通知書を手渡した。同財団からの助成が二回目となる福森代表は「財団の温かいまなざしを感じた。身を引き締め、さらに精神障害者の力になりたい」と述べた。

北國新聞（12／16）



脳外傷サポートセンター（広島県）

損保ジャパン財団
奉仕団体に100万円

損害保険ジャパン記念財団（東京都新宿区、平野浩志理事長）は八日、広島市佐伯区のボランティア団体「脳外傷サポートセンター」（馬屋原誠司代表）に、自動車購入資金として百万円を贈った。センターは共同作業所での生活訓練、バザーでの物品搬送などで車を活用する。（守田靖）

中國新聞（2／9）



波の家（兵庫県）

南日本新聞（1／28）

2006年（平成18年）1月28日

◈鹿屋市のNPO法人「メディカルクッキングティーツリー」に軽ワゴン車寄贈　損保ジャパン記念財団が13日贈った。同法人は障害者や高齢者の食事にかかわる支援をするために2004年10月に設立。6人の障害者が30人の会員に宅配給食などをしているが、個人の車を使用していたため管理が大変だった。損保ジャパン記念財団の自動車購入費助成事業は7回目で、今回は西日本地区から寄せられた148件の応募の中から10件を選定。鹿児島県内では1カ所選ばれた。同法人の安里裕子代表理事は「活動の輪を広げ、利用会員を増やしたい」と話した。



ＮＰＯ法人Medical Cooking Teatree（鹿児島県）

日刊自動車新聞（12／20）

損保ジャパン記念財団

関西民間5団体に車購入資金を贈呈



損保ジャパン記念財団（理事長＝平野浩志損害保険ジャパン社長）は14日、大阪市中央区の損保ジャパン大阪ビルで「自動車購入資金贈呈式」を開いた＝写真。関西の民間5団体に助成金を贈呈した。

損保ジャパンの髙祐一郎関西総務部長は、「西日本で148件の応募があり、活動と今後の活躍を含めて審査した。皆さまのお役に立てればうれしい」と、あいさつ。

助成先の各団体も、「運営上、福祉車両は欠かせない。地域社会の発展に貢献したい」と、謝辞を述べた。

助成先は次の通り。

▽大阪府＝堺ふれあいネット（堺市）山王相互互助協会（大阪市西成区）

▽兵庫県＝まいどいんあまがさき（尼崎市）波の家（明石市）

▽京都府＝福知山BGM福祉サービス（福知山市）

ディジーズ・マネジメント政策課題研究会シンポジウムが開催されました

―米国のメディケア、メディケイドにおける ディジーズ・マネジメント・プログラム導入から学ぶ―

1月27日（金）、東海大学校友会館にて「これからの生活習慣病対策のあり方を探る－米国のメディケア・メディケイドにおけるディジーズ・マネジメント・プログラム導入から学ぶ－」と題するシンポジウムを開催しました。当財団では、2001年に慶應義塾大学の田中滋先生を座長として「欧米のヘルスケアビジネスおよびディジーズ・マネジメント研究会」を発足させ、これまで2003年11月と2005年9月の2回にわたりシンポジウムを開催してきました。その後、同研究会の活動を引き継ぐ形で、「ディジーズ・マメジメント政策課題研究会」の活動を開始し、今回のシンポジウムが最初の成果発表となりました。

新しい研究会では、ディジーズ・マネジメントを「生活習慣病の発生・重症化を予防することによって患者のQOLを高め、ひいては医療費の適正化にもつながる取り組み」と位置づけ、日本におけるこれからの生活習慣病対策の手法としてディジーズ・マネジメントに類する仕組みを導入・発展させるための政策的な課題とその解決策について研究しています。

今回のシンポジウムでは、米国の高齢者を主な対象とする公的医療制度であるメディケアにおいて導入されたディジーズ・マネジメント・プログラムを日本の公的医療に関わる皆様にご紹介するとともに、日本への導入可能性と政策的な課題について日米の有識者の皆様に議論していただくことを目的として開催しました。

前半の講演では、最初に、米国から研究会活動にご参加いただいているグレッグ・メイヤー氏に日米の制度に関する比較説明をしていただき、続いて、米国厚生省のメディケア担当部局（CMS）に対するアドバイザーを務めるヴィクター・ヴィラグラ氏から、科学的なアプローチを用いてメディケアにディジーズ・マネジメント・プログラムを組み込もうとしているお取り組みをご紹介いただきました。次に、行政との契約でサービスを提供している民間事業者であるアメリカンヘルスウェイズ社のスコット・シビック副社長から同社の提供するサービスについてご紹介いただきました。また、CMS 長官のマーク・マクレラン氏からはビデオでのメッセージをいただきました。

後半のパネルディスカッションでは、田中座長にコーディネーターをお願いし、上記の講演者に、産業医科大学の松田教授、厚生労働省の中島参事官、そして千葉県立東金病院の平井院長を加え、さらにCMSの前担当官であるサンドラ・フット氏には国際テレビ電話でご参加いただき、日本の実情にあった効果的なプログラムの実行について議論をいただきました。

自治体、健康保険組合、企業、大学、研究者、医療関係者などからの参加者は160名を超え、生活習慣病対策への関心の高さが伺われました。

１．主催・後援・協賛

主催：財団法人損保ジャパン記念財団

後援：厚生労働省、社団法人国民健康保険中央会、健康保険組合連合会、社団法人全日本病院協会、社団法人日本病院会、有限責任中間法人日本人間ドック学会

協賛：株式会社損保ジャパン総合研究所、株式会社損害保険ジャパン、株式会社ヘルスケア・フロンティア・ジャパン

２．ご出演者

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授　田中 滋 氏（座長）
産業医科大学公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉 氏
厚生労働省大臣官房参事官（健康・医療保険担当） 中島 誠 氏
千葉県立東金病院　院長 平井 愛山 氏
米国厚生省 CMS 長官　マーク・マクレラン氏
米国厚生省 CMS の前担当官　サンドラ・フット氏
ヘルス＆テクノロジー・ベクター社　社長　ヴィクター・ヴィラグラ氏
アメリカンヘルスウェイズ社　副社長　スコット・シビック氏
　グレッグ・L・メイヤー＆カンパニー社　社長　グレッグ・メイヤー氏



座長を務められた　田中 滋 氏



ヴィクター・ヴィラグラ氏



福祉諸科学研究助成が決定しました

損保ジャパン記念財団では、福祉諸科学事業の一環として、研究者による研究や学会が取り組む研究事業に関する研究助成事業を実施しています。これまでに１２２件、金額にして２億円を超えた助成を行ってきました。

本年度は４件の推薦があり、３月７日の選考委員会にて次の２件への研究助成を決定いたしました。

①西川　ハンナ（ルーテル学院大学非常勤講師）　８０万円

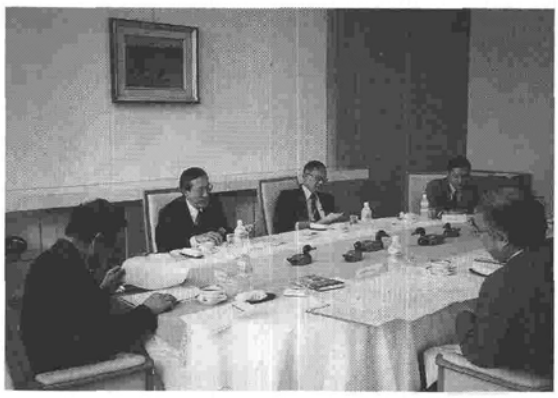
「ソーシャルワーカーの専門職倫理と価値についての研究」

社会福祉の専門職養成について専門性の低下が課題となっている今、専門職としての価値の実践は深刻な問題に発展してきている。社会福祉分野での各専門職能団体が倫理綱領に基づき、実践を強化することの必要性を主張しながらも、実践や教育に専門職倫理や価値を適用することの方法について模索中であり、確固たる方法論がいまだ開発されていない現状である。西川ハンナ氏は当テーマに関する研究を行うことには十分の業績があり、研究調査についても積極的協力を得られるまでの準備が整えられており、その意味でも調査成果が十分期待できるものと考える。

②小笠原　浩一（東北福祉大学教授）　９９７,６５０円

「国際的通用性を有する「統合的ケア」（integrated care）モデル構築のための理論的・実践的課題の解明」

ノルディック５ヵ国のなかでも、スウェーデン・デンマークとは一味違ったフィンランドの高齢者保健福祉政策の動向は注目されていたところである。それにも関わらず前記両国に比べて、その実態は必ずしもわが国では詳しくは知られていない。申請者の今回の研究内容は一面ではフィンランドの高齢者、障害者ケアの一端を明らかにしてくれるだけでなく、わが国とフィンランドの大学・研究所が共同で進めてきている「総合的ケア」の国際モデルの構築に向けての多面的研究を促進するものである。その意味でこの研究はわが国の高齢者、障害者ケアの政策的、実践面で参考になるだけでなく、高齢者・障害者ケアに関する研究として注目できるものである。今回は限られた日程と限られた助成金額などを考慮し、両国の研究者が一同に会し、それぞれの研究の経過、成果あるいは今後の課題などをグループ討議によって明らかにしようとするもので適切な研究計画と認められる。



３月７日（火）の選考委員会の様子

NPO支援財団研究会東京会議

助成財団とNPOとの共同戦略会議

地域社会の活性化と助成財団の役割

―3都市でのディスカッションをふまえて―

２月２１日（火）、損保ジャパン本社ビルにて、NPO 支援財団研究会の主催による標記シンポジウムが開催されました。NPO 支援財団研究会では、新しい取り組みとして、「地域社会の活性化と助成財団の役割」をテーマに、各地域でシンポジウムを開催することとし、今年度は東日本の３都市（秋田、札幌、長野）で実施しました。昨年１１月開催の長野でのシンポジウムは当財団が事務局を務め、その様子は財団ニュース 2005-2 号（平成１７年１１月号）でお知らせしました。

この東京会議は二部で開催され、第一部は助成財団センター専務理事である堀内生太郎さんの報告「NPO を支援する助成財団の現状と課題」に始まり、３都市で開催されたシンポジウムの総括について、各地域の共催者である、あきた NPO センター、NPO 推進北海道会議、長野県 NPO センターから報告がなされ、全てのシンポジウムに参加した共同通信社本社編集局ニュースセンター整理部の松本正さんが感想を述べられました。また、第一部のまとめとして、法政大学教授・日本 NPO センター副代表の山岡義典さんが「NPO と助成財団がより良い事業ができるには」と題して話されました。

第二部は全体会議「より良い協働に向けて」と題して、参加者全員による自由討議がなされました。シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会事務局長の松原明さんのコーディネーターにより、「地域の活性化と助成財団の役割」と「より良い協働はどうすれば生まれるか」の２つのテーマについて、NPO、助成財団、支援団体、行政、企業の参加者約７０名が率直な議論を交わしました。

来年度は、西日本の４都市（熊本、広島、高知、大阪）でシンポジウムを開催する予定であり、各地域の共催者である、NPO くまもと、NPO 高知市民会議、ひろしま NPO センター、サントリー文化財団から今後のシンポジウム開催における抱負が語られました。

これだけの多分野から参加者が集まる会議もめずらしく、三位一体の改革・地方分権政策が進行していく中にあって、地域の課題に取り組む NPO と新しいパートナーシップ関係を強化していくために、助成財団・支援団体・行政・企業と NPO が何を考えたらいいか、意見交換をする貴重な機会となり、シンポジウム終了後の交流会でも親しく情報交換がなされました。



シンポジウム会場の様子

シンポジウム終了後の懇親会の様子



「働く仲間のうたカレンダーコンクール」が開かれました

平成１８年２月１日・２日、きょうされん主催「働く仲間のうたカレンダーコンクール」の応募作品の展示およびギャラリートークが、本社２階大会議室で行われました。

コンクールは今年で２１回目を迎え、会場には６００点もの応募作品が展示されました。「働く仲間のうたカレンダー」とは、障害のある人たちの絵画作品をカレンダーにしたもので、そこに掲載する絵画のコンクールを「きょうされん」が主催し、損保ジャパン記念財団が協賛したものです。なお、審査委員の一人として、損保ジャパン東郷青児美術館の宇野館長も参加しました。ギャラリートークは、１５０名を超える方々の参加を得て、主催者・協賛者の挨拶に始まり、シンガーソングライター 森本ケンタさんのミニライブを楽しんだあと、コンクール審査委員より入賞作品を観ながら、絵の見方や審査過程について、分かりやすい解説が披露されました。なお、入選作品には、損保ジャパンから記念の絵筆が贈呈されます。



審査委員による入賞作品の解説風景



１５０名を超える方々の参加を得て開かれたギャラリートーク

「きょうされん」
障害のある人たちのための共同作業所など、
全国１７００ヵ所が加盟している障害者の団体

刊行物のお知らせ

●財団叢書ＮＯ．７０

『第６回損保ジャパン記念財団賞受賞者記念講演会講演録』

寄付のお礼

皆さまから暖かい寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。当財団の事業は、皆さまからの貴重な寄付金により成り立っております。法人、個人問わず広く寄付金を受け付けておりますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。　（平成 18 年 3 月 20 日現在）

ユニバース開発株式会社様
株式会社ジャパン保険サービス様
株式会社損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ｼｽﾃﾑｿﾘｭｰｼｮﾝ様
株式会社損保ジャパン調査サービス様
株式会社損保ジャパン情報サービス様
安田企業投資株式会社様
損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ株式会社様
株式会社損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ﾋﾞﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ様
株式会社損保ジャパン・ハートフルライン様
損保ジャパンひまわり生命保険株式会社様
株式会社損保ジャパン代理店サービス様
株式会社損保ジャパン総合研究所様
株式会社損保ジャパン・ハートフルライン様
株式会社損保ジャパン企業保険サービス様
株式会社損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ様
株式会社損保ジャパン・クレジット様